

参考にもならう。卷末には洗骸城址外十三枚の繪圖寫眞が附してある（菊版八六四頁、島根縣發行）〔松野〕

●日本藥業史

池田 嘯風著

神代より現代に至る日本藥業の發達を説いたもので明治以後を特に詳密に叙べて居る。藥物と人生とはかなり密接な關係があるからその發達を研究する事は興味ある題目であるが相當に困難な仕事であらう。されば本書の如きも主として藥物の名稱と藥物取扱並に販賣等に關する法規の如きものを取扱つて居る。且史料の蒐集不十分の爲鎌倉時代の如き僅かに二頁を宛てたるのみであるのは繁簡その當を得ないものである。然しながら從來類書を有せざりし方面であるからこれ亦多少は已むを得ないところであつて著者の勞を多しするに共に更に一層研鑽せられん事を望む（菊判四一五頁、京都藥業時論社發行、價三、五〇）

●横濱郷土史料吉田新田古圖文書

吉田勤兵衛良信は攝津より出て明曆中横濱の地百十六町を墾いた。即吉田新田であつて、今日横濱市の中樞た

る伊勢佐木町附近が全部それである。本書はこの開拓に關する文書古圖を集めコロタイプ版に附したものの、石野瑛氏がその説明を書いて居る。横濱市の歴史にまつては最重要な史料であることは云ふまでもないが横濱が今日占むる位置を考へるならばこれらの史料も亦少くも日本の意味ありとすべく然らずとするも一般に新田開發經營の次第を見るべきものである（菊判横綴、圖版二三、横濱吉田家藏版、非賣品）〔以上肥後〕

●近江神崎郡志稿

神崎郡教育會

上古百濟歸化民による特殊文化の培養地として、更に中世以降近江商人活躍の一淵藪として、神崎郡の歴史上占むる位置には獨自なものがある。大正元年郡教育會が大橋金藏氏にそれら事蹟の編纂を託してより十五年、氏の不撓の努力は人事自然のあらゆる方面に向けられて二卷十五編二百數十章の大冊を生んだ。豊かな資料の巧みな整理と夥しい事項の精緻な記述とは過去文化の繁榮を示すのに充分であり、不斷の努力による特殊資料の採訪は郡志としての本書の價値を高むるであらう。然も編者